

## 謝 辞

### — 2007 年度春季合宿調査(タイ王国)への協力者のみなさんへ —

専修大学社会科学研究所所長 内田 弘

本研究所の恒例の春季合宿調査は、2007 年度にはタイ王国(Kingdom of Thailand)でおこなうことになり、2008 年 3 月 14 日(金)から 3 月 20 日(木)までの 6 泊 7 日で実施された。その日程の詳細は、本誌に村上俊介事務局長が報告するので、そちらに委ねたい。ここでは、この調査活動に様々なかたちでご協力くださった方々への謝辞を申し上げたい。

訪問順に、タイ王国の訪問先の方々に改めてお礼を申し上げる。

3 月 15 日午前中に訪問した「チェンマイ第 1 地区工業新興事務所」の所長 Veranant Neeladanuvongs 氏、Neeladanuvongs 氏のレクチャーの通訳に当たってくださったチェンマイ大学人間科学部教授の Ms. Saranya、そのほか、その事務所で私たちを接待してくださった方々に感謝する。おかげで、午後からの一村一品運動(OTOP)の二つの現場視察やタイの地方の産業政策について重要な知識を得ることができた。同日午後、いわゆる OTOP の地場産業工場を視察した。①人造ミニジャ船舶生産工場の方々、引き続き訪れた②Silver Ware 工場の方々にお礼申し上げる。現場の方々は両方とも微細を極める手作業に沈着に熱心に携わっていた。

3 月 17 日の午前中に訪問した「ニッサン・タイランド」の Senior Vice President の末松謙氏、General Manager の張替毅一氏、General Manager の Shigeki Okimoto 氏、General Manager の Teruji Murakoshi 氏に感謝申し上げる。自動車生産のアジア現地への定着の現場を、感動をもって拝見した。

同日午後訪問した「タイ日工業大学」の学長の Krisada Visavateeranon 氏、Dean, Faculty of Business Administration の Rungsun Lertnalsat 氏、その他の方々に、日本とタイの研究と教育における協力関係の重要性を教えられた。今後の大きな課題を知った。深く感謝する。

3 月 18 日の午前中は「タイ中央銀行」を訪問した。1997 年のタイ金融危機とその後のタイ経済の発展に関するミニ・シンポジウムを行うことが主な目的であった。シンポのまえに、タイ中央銀行総裁の Ms. Tarisa Watanagase は私たち訪問者一同と記念写真を取る機会を設けてくださった。シンポジウムの冒頭で Ms. Watanagase は威厳ある表情で力のこもった挨拶をされた。シンポジウムでは、Dr. Don Nakornthab が、事前に本研究所に送ってくださった報告を基本に、詳細な報告を展開した。予定コメンテーターの大倉正典所員が内在的で鋭いコメントと質問をおこない、さらに平尾光司所員と稲田十一所員が示唆に富む質問をおこなった。このタイ訪問

に同行した原田博夫所員が慶応義塾大学在学中に所属した同学年のゼミナールに、総裁の Ms. Watanagase も所属していた。原田所員はそのよしみでタイ中央銀行訪問の機会を設けてくださった。以上の方々に、深くお礼申し上げます。

3月18日の午後は「いすゞタイランド」を訪問した。Director の井上重久氏、Senior General Manager の鏡勉氏、Senior Managing Staff の島根正和氏には、自動車の現地生産に関する有益な知識と情報を的確にお教えいただいた。お礼申し上げます。

3月19日の午前中、「タイ味の素ノンケー工場」を訪問した。工場概観のビデオを拝見したあと、Factory Manager である坂口正二氏には、タイのみならず広く東南アジアの各国地域の食文化の伝統に適合した多様な食品を生産している現場について説明し案内していただいた。感謝申し上げます。

タイ訪問に先立って、二回、視察準備研究会を行った。

まず、2008年1月26日(土)には、本学経済学部(文化人類学専攻)の渡部重行氏にタイ王国全般について、ビジュアルに詳細なガイダンスをしていただいた。そのあと、中山金属株式会社の中山喜徳氏に、主に日系企業のタイへの進出状況について報告していただいた。お二人に深く感謝する。

3月5日(火)には、タイ王国大使館経済財政部所属の公使参事官の Ms. Ketsuda Supradit に、タイ経済全般にわたって報告をいただいた。そのさい通訳は本学経済学部(国際経済学科)の飯島健子氏に担当していただいた。お二人に改めてお礼申し上げます。なお、Ms. Supradit のほか、タイ王国大使館から Jullapong Thaveesri 氏、Kantatorn Wannawasu 氏、Kantatat Wannawasu 氏の三名の方々が研究会に参加された。お礼申し上げます。Ms. Supradit の報告のあと、活発な質疑応答や意見表明が展開された。

今回のタイ訪問の旅程については、富士国際旅行社の営業部課長の小野寺研一氏、営業部の尾島礼子氏にお世話いただいた。両氏は、3月5日の研究会の会場で研究会の前に、詳細に旅程を説明していただき、出発当日(3月14日)には成田空港まで出張し詳細で正確なサポートを機敏に行ってくださいました。海外調査という特殊な分野でも豊富な経験のあるご両人に準備していただいて、無事、有益な調査を実施することができた。厚くお礼申し上げます。

今回のタイ訪問をより有益なものにするために、本研究所の事務局内部に「タイ訪問準備会」を設け、その準備にあたっていただいた。村上俊介事務局長、平尾光司所員、黒瀬直宏所員、原田博夫所員、宮寄晃臣所員にお世話いただいた。感謝申し上げます。

最後に、この視察に参加した(私の除く)21名の方々は、日本の3月中旬とは全く異なる気候風土のタイに赴き、大病を患うことなく、大きな事故に遭遇することもなく、積極的に視察に参加し、視察全体が滞りなく進むように協力してくださいました。特に村上俊介事務局長には視察

が快適に進むように細やかに対応していただいた。参加者の方々から本誌に精魂込めた貴重な報告を寄稿していただいた。タイ視察参加者、寄稿者のみなさんに、深く感謝申し上げます。

(以上)